

デーリー東北

2026年(令和8年)4月29日(水曜日) (10)

八工大が三味線譜寄贈

県総合学校教育センターに

自動採譜装置で作成の47曲

八戸



高橋英樹所長（左から3人目）に楽譜などを手渡す小坂谷壽一名誉教授（左）ら

八戸工業大は24日、小坂谷壽一名誉教授が開発した「自動採譜装置」で作成した、民謡など47曲分の楽譜と、各曲を収録した「CD-ROM」を、青森県総合学校教育センターに寄贈した。

自動採譜装置は、三味線で演奏した音楽を楽譜に起こすことが可能。小坂谷名誉教授は伝統音楽を後生に受け継ぐと、2009年から研究を続けてきた。今回は「南部追分」や「南部大黒舞」などの民謡を譜面化。楽譜は三味線譜と五線譜で表示している。贈呈式では、小坂谷名誉教授と同大の竹内貴弘工学部長が、同センターの高橋英樹所長に楽譜などを手渡した。高橋所長は「伝統文化の継承と発展、音楽教育の振興につなげていきたい」と謝意を示した。楽譜などは音楽教員の研修などで活用する。（丹代裕太）

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。